

令和8年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①普通科と総合ビジネス科の併置の特性をいかした教育活動を検討し、幅広い学びの実現を図る。 ②生徒の学ぶ意欲を引き出し確かな学力を育みながら、課題解決のために必要な思考力、判断力、表現力などを育む教育課程を作成する。	①普通科と総合ビジネス科の併置の特性をより活かした教育課程のさらなる検討と課題となっている方策・規準のすみやかな改善を図る。 ②ICT活用、DX人材育成推進、シチズンシップ教育等の指定事業およびSAH等を活用し、一人一台端末を活かした授業改善を推進し、評価と指導の一体化の一層の推進を図る。	①主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、教育課程・規準の検討と地域の教育資源の活用を推進する。 ②一人一台端末やICT機器を活用し協働して課題を解決する授業実践や評価と指導の一体化を推進することを目的とし、単元ごとの評価の積み重ねを実践する研修会を実施する。 ②DX人材の育成、シチズンシップ教育、SAHとグループ等と連携し探究活動を推進する。	①教育課程の改善やその実現の方策・規準の改善ができたか。学校間連携や地域連携、企業との取組の生徒の参加率、参加生徒の満足度はどうだったか。 ②ICT機器を活用した授業実践、評価と指導の一体化を推進する研修会を実施できたか。授業改善に効果があったか。 ②関係者アンケートから達成感を得られたか。					
2	生徒指導・支援	①社会の一員として行動するための規範意識や自己指導能力を高めるとともに、社会貢献に対する意識を育む。 ①自己肯定感を醸成するとともに、活動を通して主体的・協働に行動できる人材を育成する。 ②生徒一人ひとりの状況に応じた相談体制を強化するとともに、活動を通して主体的に行動できる人材を育成する。 ③安心安全な学校環境の整備を行う。	①学校行事や委員会活動等の企画運営を生徒主体で取り組ませ、達成感を得られるようにする。また、内容も精選する。 ①部活動の継続率を上げる。 ①生徒の自己指導能力を育成するために自己理解に基づき他者を尊重しながら意思決定する力を身につける。 ②教育相談体制を検証し、かながわサポートドック等の適切な活用を通じ、多様な生徒・保護者等が教育相談を積極的に活用できるように手立てを講じる。 ③登下校時の交通事故を減少させる。	①生徒がリーダー性を発揮しながら行事等を主体的に運営し、コミュニケーション力や自己有用感を高められるように支援する。 ①各部の活動状況を生徒会新聞、HP等で紹介する等地域に伝える。 ①全ての教育活動を通して生徒自ら課題を発見し、学校ブランディングを高める活動を展開する。 ②様々なツールにより教育相談について積極的に発信し生徒・保護者外部との適切な意思疎通により個別柔軟な対応を行う。 ③道路交通法改正を踏まえた交通安全教室や自転車点検について積極的に実施する。	①各行事アンケート「運営に携わったか」の項目で80%以上の生徒が肯定的な回答をしたか。 ①部活動の加入率が上がったか。継続率が80%を超えたか。 ①シチズンシップ等のアンケート調査により課題発見力、協働力、学校ブランディングへの貢献について肯定的な回答が過半数を占めたか。 ②教育相談の利用率が前年を上回ったか。 ③交通安全啓発活動の回数は前年度を上回ったか。交通事故発生率が前年度を下回ったか。					

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3 進路指導・支援	①体系的なキャリア教育により、早期から将来を展望した自己理解、キャリア学習を深めさせる。 ②社会の一員として参画し貢献する意識を高める。	①3年間を見通した目標達成を目指したキャリア教育を実践していく。 ②探求学習を推進し、自己理解、キャリア実現へとつなげていく。 ③社会に貢献できるよりよい人間育成を目指す。	①適切な時期に有効なガイダンス、説明会を実施する。 ②探究学習を通して、自己理解、上級学校理解を深める。外部資源を活用し、学ぶ力を育成する。 ③授業や様々な場面で、ビジネスマナーを意識させる。	①アンケート等の結果から、進路意識が高まったか。卒業時の進路未定者の割合が全体の5%以下であったか。 ②探究学習を通して自己理解、キャリア意識を深められたか。 ③多くの場面で生徒の言葉遣いやマナー向上等が見られたか。					
4 地域等との協働	①地域に開かれ、地域と共にある学校を実現する。 ②学校運営協会(地域連携部会)の意見等を活用し、実現可能な取組についてスピード感をもって実践するとともに、地域貢献に資する活動を充実させる。	①学校説明会や、生徒を巻き込んだ地域貢献活動を通じて、地域貢献活動を深化させ、生徒募集に繋げる。 ②継続してDX事業やデュアルシステムとも連携し、外部人材を効果的に活用し、地域住民も巻き込んだ活動を充実する。	①学校説明会、中学校訪問や地域貢献活動を通じて、中学生に選ばれる学校になる活動を推進する。 ②充実した設備を使い、両科および地域・企業と連携し生徒のアイデアも取り入れ、新しい地域貢献活動を立ち上げる。厚木市と連携した会計教育を推進する。	①学校説明会の参加者が前年度比110%以上、入試倍率は普通科1.2倍以上、総合ビジネス科1.1倍以上になったか。 ②デュアルシステムの取組を拡大・充実できたか。両科の生徒と地域・企業が連携した地域貢献活動を企画し実践できたか。					
5 学校管理 学校運営	①生徒が安全安心で快適に過ごせる教育環境の整備を進める。また、時代の要請に応じた教育のICT環境の整備を推進する。 ②防災課題に対する理解を深め、防災意識を高める。 ③不祥事防止を徹底し、信頼に根ざした学校づくりを推進する。	①生徒が安全・安心に学習できる環境整備を促進する。 ①事故防止を念頭に置き、安心して利用できる環境を整備していく。正しい利用方法の啓発を図る。 ①他グループや事務と連携し、生徒が施設を十分に活用できるように管理・整備する。 ②地域と共働して防災体制の確立と整備に努め、災害発生時に安全確保と被害の最小化を図る。 ③不祥事防止研修により働き方改革を念頭に置き、教職員の実践力を向上する。	①生徒の清掃活動を充実させつつ、オフィス改善、老朽化対策工事の円滑な実施を通して安全な環境づくりを目指す。 ①啓発活動に加え、必要に応じて生徒指導Gと連携して正しい利用法の浸透を図る。環境整備については、教育局と連携し、授業や生徒の活動が円滑に進むように整備を更に進める。 ①他と連携し、効果的な学習環境を整える。 ②実効力のある防災教育等を通し災害時に人命を守るための判断力・行動力を高める。 ③啓発活動や研修会等を通じて、意識の醸成を図る。	①生徒が美化活動に参加できたか。老朽化対策、教育環境整備ができたか。 ①円滑なICT環境の構築ができたか。 ①他と連携し校舎を有効に活用し、教育活動のさらなる充実に向けた環境づくりができたか。 ②災害への対応力を高める防災教育、防災訓練等ができたか。地域主催の防災訓練に参加し、防災意識の向上および実践的な対応力を強化できたか。 ③時宜を得た啓発活動や研修会等により不祥事を防止できたか。					

